

(2025年秋掲載) 令和6年度の学校経営計画及び評価 (中学部)

1. 目指す学校像

建学の精神である校訓三綱領の『一、履正不畏（りせいふい）：自ら正しいと信ずることを、何ものをも畏れず勇気と責任を持って実践する。 二、勤労愛好（きんろうあいこう）：勉学に全力をつくし、人類の文化を継承発展させ、国家社会に貢献する。 三、報本反始（ほうほんはんし）：初心にかえり、自分の今日あるのは縁ある人々（保護者や恩師）のお陰であると、常に感謝と報恩の念を持ち、行動の指針とする。』の訓えをもとに、知性と豊かな人間性を有し、次世代を担える生徒を育成する。

2. 中期的(令和6年度)教育指導 重点目標

(1) 知育尊重と人間教育

1. 進学指導の充実と進学実績の向上
2. 生徒を集中させる熱意ある教科指導
3. 各コース（学藝／3ヵ年）の特性を活かした学習・進学指導

(2) 3年前に創立100周年を迎え、更なる飛躍を目指すため、ニーズに応える信頼の構築

1. 生徒・保護者からの信頼づくり
2. 社会性の育成と地域に信頼される学校づくり

(3) 環境・システムの醸成

1. 心豊かで潤いのある学校生活
2. ICT教育環境の充実と更なる躍進

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年度末]	学校運営協議会からの意見
【生徒】 ・学校生活は楽しい。 (令和5年度:87.4% 令和6年度:91.6%) ・授業に先生方の熱意が感じられる。 (令和5年度:83.5% 令和6年度:88.8%) 【保護者】 ・保護者としてこの学校に子供を通わせて満足している。 (令和5年度:90.7% 令和6年度:89.8%) ・授業に先生方の熱意が感じられる。 (令和5年度:88.4% 令和6年度:88.8%) 【教職員】 ・教員は授業に対する十分な教材研究・事前学習に努めている。 (令和5年度:100% 令和6年度:94.4%) ・生徒はしっかりと集中して授業を受ける体制が出来ている。 (令和5年度:77.8% 令和6年度:72.2%) 【学校運営全般】 ・生徒と保護者の全体質問（生徒：40問、保護者：38問）に対する肯定回答比率（四捨五入で7割を肯定目安とする）は、生徒の方は令和5年度の87.5%から令和6年度では84.2%。保護者の方は、令和5年度の94.2%から令和6年度では、84.2%と昨年度より下降しているが、どちらも高水準を維持している。特に（6. 授業参観）の項目では、肯定回答比率が令和5年度の94.2%から令和6年度では93.3%とこちらの数値も高水準を維持している。令和3年度はコロナの影響で34.0%と低迷していたが、コロナの鎮静化に伴い、学校活動が盛んに行われ、学校行事等を見て頂く機会が大幅に増えたのが要因であると推察できる。また、（33.学校は保護者の意見を積極的に取り入れるよう努力している）の項目においては、令和5年度では76.2%であったが、令和6年度では77.8%とほぼ同水準であった。まだまだ満足する数値には至っていないが、これからも保護者・生徒・職員が三位一体となって、ICT機器も積極的に利用して、期待に応えられるよう努めたい。	* 令和6年度教職員による自己評価、及び生徒・保護者による関係者評価に基づき、令和5年度（昨年度）と対比しながら総括する。 議題：学校の危機管理について 数値で検証すると、生徒では令和5年度は77.1%、令和6年度は、86.6%の満足度、保護者では、令和5年度は83.7%、令和6年度は82.4%と、どちらの数値も上がり下がりはあるが高水準で安定している。しかし職員の自己評価では、令和5年度は44.4%、令和6年度は66.7%と、昨年度より20%上昇してはいるが、昨年度に引き続き更なる充実が必要という評価となった。コロナ禍の鎮静化に伴い令和5年度では、避難訓練を1学期・2学期の2回実施することが出来たので、生徒や保護者の目からは、満足度が増えた感はあるが、職員からは、更なる充実が必要という評価となった。近年災害意識が高まっている中、常日頃より三者一丸となって危機管理意識を高めていきたい。 議題：授業運営について 特に自己評価 N020「生徒はしっかりと集中して授業を受けることが出来ている」に関して検証すると、令和5年度では77.8%から、令和6年度では72.2%となり、まだまだ及第には至っていない。ICTを活用して授業をできるようになったのだが、内容についてはまだまだ改善の余地はあると感じている。授業内容を精査し、生徒が集中できる環境づくりに励みたい。職員はこれからも生徒にしっかりと寄り添い、今まで以上に家庭と連携する指導に努めたい。 最後に学校長が、「保護者・生徒・職員の年度末アンケートで、左記の【学校運営全般】の肯定的回答の数字を見れば、本年度も大過なく順調に学校運営がなされたと判断できる。今後も生徒達から発せられる小さなサインに反応し、家庭と連携する指導を是非継続的にお願いしたい」との会の総評を確認した。

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指数	自己評価
(1) 知育尊重と人間教育	1. 進学指導の充実と進学実績の向上 あ) 3 い) 3 8 う) 4 0 え) 4 1 ★あ)い)う)え)の番号は設問番号 2. 生徒を集中させる熱意ある教科指導 あ) 1 9 い) 2 1 3. 学藝／3カ年の各コースの特性を活かした学習・進学指導 あ) 2 6 い) 2 7	1. あ)教員間の信頼関係のもと、生徒の学校生活上のため様々な教育的情報交換を積極的に行い、教育活動に活かせるように努めている。 い)生徒の実態・実情に即し、授業内容や教材について適宜職員間で意見交換をし、授業や指導に役立てるよう努めている。 う)人権問題や大学入試改革を見据え、必要に応じて講師を招聘し、効率的・効果的に学内研修に参加できる体制は整っており、積極的に参加している。 え)研修に参加した教員は、出来る限りその成果を他の教員と共有するよう情報交換に努めている。 2. あ)教員は授業に対する十分な教材研究・事前準備に努めている。 い)学習内容はクラスのグレード編成に応じて効果的に展開されている。 3. あ)生徒の進路・進学希望を踏まえ、実態に即した指導に努めている。 い)個々の生徒について状況などを把握するため、各教員は平素より担任・学年との意思疎通を図るよう努めている。	1. あ) 70%以上 い)～え)の平均指数 70%以上 2. あ)～い)の平均指数 80%以上 3. あ)の平均指数 70%以上 い)の平均指数 80%以上	1. あ)令和5年度・6年度はどちらも83.3%であった。(△)本校ではICTを活用し、様々な教育的情報の交換を積極的に行えるようにはなったが、まだまだ研究の余地があるように感じている。この結果を踏まえてこれからも精進し、更なる研鑽に努めたい。 い)～え)令和5年度の平均値は62.5%、令和6年度は68.5%と及第点には至っていない(△)。しかしながら職員間の研修への参加意識は高い。教職員人権研修のみの実施に終わったことが要因の一つに挙げられる(×)。 2. あ・い)の令和5年度の平均値は91.7%、令和6年度は88.9%に至り高水準を維持している(○)。令和5年度においては、保護者の学校評価にある(4. この学校に子供を通わせて満足している)の項目は89.8%、生徒の(1. 学校生活は楽しい)の項目も91.6%と高水準を維持している。保護者・生徒・職員の三位一体となった展開を嬉しく思う。本校に託された期待をしっかりと受け止め、更にきめ細かな教育を心がけたい。 3. あ)分析は1-あ)を参照(△)。 い)令和5年度は90.7%、令和6年度は100.0%と高水準を維持している(◎)。この観点こそ、私学に子供を託す保護者の思いが一番込められていると認識し、更に期待に応えられるよう継続的な努力をしてゆく。
(2) 創設10周年を機に、新たな飛躍を目指すため、私立進学校・履正社と信頼し	1. 生徒・保護者からの信頼づくり あ) 2 4 ・ 2 8 3 0 ・ 3 2 い) 2 5 ・ 2 9 3 1 ・ 3 3 う) 3 4 2. 社会性の育成と地域に信頼される学校づくり あ) 1 1 ・ 1 2	1. 生徒・保護者には次のあ)・い)・う)の観点を信頼作りの基盤とする。 あ)生徒の生活指導・進路指導・欠席過多の場合、組織的に対応する体制を整える。 い)上記あ)に対する指導は、常に保護者と連携を取り学校と家庭の両輪で指導を行う。 う)生徒の転・退学に至るまでの十分な指導と、保護者との密な連携を常に心掛ける。 2. あ)地域住民に対し、施設・設備の貸し出しや、交流を積極的に図る。	1. あ)の平均指数 80%以上 い)の平均指数 80%以上 う)の平均指数 80%以上 2. あ)の平均指数 70%以上	1. あ)令和5年度は83.3%、令和6年度は79.1%と下降している(△)。その内容を令和5年度同様にい)で検証する。 い)令和5年度は94.4%、令和6年度は－5.6%の88.8%と下降しているが、高水準は維持している(△)。また、これに関する令和6年度において保護者対象の14・31の2つの項目で検証すると、14は86.9%、31は95.5%と及第点となる肯定的回答を得ており、両者で連携する指導が適切になされていることが検証できた(○)。 う)令和6年度の指数は前年より－11.1%の83.3%となり、下降したが数字的には十分な合格点である(△)。このケースに至る例は殆どないが、至れば上記い)で言及しているように何とか回避すべく、家庭との連携する指導で対応している。 2. あ)令和5年度は83.4%、令和6年度は75.0%と及第点ではあるが、－8.4%下降している(△)。地域に開かれた学校になるよう継続的な努力を続けたい。
(3) 環境・システムの醸成	心豊かで潤いのある学校生活 あ) 6 ・ 7 ・ 8 い) 9 ・ 1 0 う) 1 7 ・ 1 8	あ)ホームページ、学校・学年・学級から保護者への情報提供と授業公開を定期的に行い、開かれた学校づくりに努める。 い)危機管理マニュアルを踏まえ、警察・消防等の関係機関との連携に努め、適切な校内訓練のシステムを構築する。 う)環境教育の一環として、ゴミの分別・日々の清掃指導の徹底を図る。	あ)の平均指数 80%以上 い)の平均指数 80%以上 う)の平均指数 80%以上	あ)令和5年度は77.8%、令和6年度は87.0%と上昇している(○)。ICTを活用し、保護者への情報発信に努めてきたことが要因で、ますます開かれた学校づくりを目指して、タイムリーな情報サービスに努めたい。 い)令和5年度は41.7%、令和6年度は61.2%と前年比＋19.5%と上昇しているが、課題の多い項目である(×)。令和6年度は豊中警察署のスクールサポーターとも協議の上、4月に「SNSに関する問題点」の講演を実施したのだが、まだまだ浸透していない感がある。ただ保護者対象の34危機管理の項目では、令和5年度の83.7%から令和6年度では82.4%となり、前年比－1.3%の微差ではあるが、肯定的解答を得られている。 う)令和5年度は61.1%、令和6年度は91.6%と＋30.5%上昇している(○)。この結果に驕らず日々の学校生活の中で、施設・備品を大切にす意識付けの徹底を図りたい。